



TOEIC® テストの新形式問題における パート2の難易度をさらに考察する ——ETS 作成問題の分析を通して——

井 上 治

概要 本論では、ETS 作成による総計530問の Part 2 の問題について、「質問文の語数」、「質問文の種類」、そして、「質問文に対する誤答の選択肢」という3種類の観点から分析を行ない、「今回のリニューアル後最新」のものを、「リニューアル後の初期」のもの、「リニューアル後の後期」のもの、そして、「今回のリニューアル」のものと比較して考察をする。そして、10年ぶりの改定となった TOEIC® リスニング&リーディング テストにおいて、「今回のリニューアル後最新」の Part 2 の問題が、これまでのものとちがいがいいのかどうかをみることを通して、新形式問題における Part 2 の難易度をもう一度推察する。

キーワード TOEIC® リスニング&リーディング テスト, リスニング・セクション パート 2, 公式問題集, 難易度

原稿受理日 2018年9月28日

Abstract In this paper, the 530 questions of Part II of the *TOEIC*® Listening & Reading Test by ETS are analyzed from the three points of view: “the number of words in the question sentences,” “the types of question sentences,” and “the distracters to the question sentences.” After the analyses, the 140 questions that are “the latest in the current revision” are compared with the 390 questions made “in the early years after the last revision,” “in the late years after it,” and “in the current revision.” The reason for considering the questions is because the form of the exam questions has been partially revised for the first time in ten years. On the basis of these analyses, it is speculated on once again whether the level of difficulty of the Part II questions in the new test has increased or decreased.

Key words *TOEIC*® Listening & Reading Test, Listening Section Part II, Official practice book, Level of difficulty

1. はじめに

2016年5月29日実施の公開テストから新しい出題形式が導入された *TOEIC*[®] Listening & Reading Test (以下、*TOEIC*[®]) について、これまで2回にわたって、その Part 2 の難易度がどのように変わるのかを推察してきた。そこでは Part 2 の質問文について3種類の観点から分析を行ない、その2回ともにおいて、「新形式問題における Part 2 の難易度は下がることが予測される」という結論を出した。

しかし、前回の分析においては、平均値から考えて前々回と同じ結論となったが、分析した当時において最新であった公式問題集の数値だけを見ると、難易度が上がる傾向を読み取ることができたため、今後の出題傾向を注意してみていくことが必要であることも述べた。

そこで今回は、新しい出題形式のテストが団体特別受験制度 (IP: Institutional Program) においてもスタートした、つまり、*TOEIC*[®] が完全に新しい出題形式に移行した2017年4月以降から現時点までに発刊されている2冊の公式問題集 — 2017年12月発刊の『公式 *TOEIC*[®] Listening & Reading 問題集3』(以下、『問題集3』) と2017年6月発刊の『公式 *TOEIC*[®] Listening & Reading トレーニングリスニング編』(以下、『トレーニング』) — の合計140問の Part 2 の問題を追加分析することを通して、前回までの予測が正しいものであったのかどうかを考察してみたい。

筆者は、以前からずっと、「Part 2 がリスニング・パートの出来・不出来を決める要のパートである」と感じてきたので、Part 2 の難易度を予測する試みを続けている。一見、Part 3 と Part 4 のほうが難易度が高そうなのであるが、これらのパートでは、正答にたどりつける大きなヒントとなる情報である「質問文と選択肢」が問題冊子にプリントされている。それに対して、Part 2 は純粹にリスニング能力が試されるパートになっていて、文字のヒントが何もないので、どの受験者も「今日はできるだろうか」と不安に思う、「心理的難易度」が高いパートなのである。したがって、Part 2 を「今日もちゃんとできている」と安心して通過することができれば、リスニング・パートにおける最大の難関である Part 3 を自信と余裕をもって戦うことができ、リスニング・パートのスコアが大きく伸びるというわけなのである。

実際のところ、Part 3 と Part 4 に関しては、「会話やアナウンスを聴く前に、プリントされた質問文と選択肢にあらかじめ目を通しておく」という、いわゆる、「質問文と選

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する(井上)

択肢の先読み」の練習を十分に積めば、正答率が Part 2 を上回ってくる。近畿大学経済学部2年生の筆者の担当クラスでは、Part 3 の模擬練習を2セット行なってから公式問題集を使った模擬テストを春学期の終わりの段階で行ったところ、ひとつのクラスでは Part 2 57.6%, Part 3 58.2%, Part 4 58.3%, もうひとつのクラスでは Part 2 54.0%, Part 3 60.5%, Part 4 56%というように、Part 3 と Part 4 の正答率が Part 2 のそれを上回った。Part 3 と Part 4 に関しては、「質問文と選択肢の先読み」ができるようになれば、正答率を大きく伸ばすことができる。これは、「先読み」をすることでその設問に解答しやすくなるのはもちろん、質問文と選択肢の中に隠れているヒントに気づいてより正答に近づくことができるからである。これに対して、やはり Part 2 は純粋にリスニング能力を試されるパートであるため、上記のクラスにおいて、Part 2 についても「質問文のディクテーション」を中心に模擬テスト前に十分に練習をしているのであるが、Part 3 と Part 4 と比較すると大きくは正答率が伸びないのである。したがって、Part 2 の正答率を伸ばすためには、受験者はディクテーションやシャドーイングなどの練習を積むことはもちろんのこと、Part 3 と Part 4 の「プリントされた質問文と選択肢」に匹敵するような情報を事前に知っておくことで「心理的難易度」を大きく下げることができる、と筆者は考えるのである。

本論文では、公式問題集に収録されている ETS (Educational Testing Service) 作成による Part 2 の問題に関して、これまでと同様に、「質問文の語数」、「質問文の種類」、「質問文に対する誤答の選択肢」という3種類の観点から分析を行ない、最新の問題140問の数値を、これまでに分析してきた3つの段階に分かれている総計390問の数値と比較して考察することを通して、前回までの予測が正しいものであったのかどうかをもう一度考察してみたい。

上に挙げた「3つの段階」とは、「前回のリニューアル後の初期」(2005年発刊の『TOEIC® テスト 新公式問題集』[以下、『Vol. 1』]と2007年発刊の『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 2』[以下、『Vol. 2』]が含まれる)、「前回のリニューアル後の後期」(2012年発刊の『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 5』[以下、『Vol. 5』]と2014年発刊の『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 6』[以下、『Vol. 6』])、そして、「今回のリニューアル後」(2016年発刊の『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』[以下、『新形式』]、2016年発刊の『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』[以下、『問題集 1』]、2017年発刊の『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 2』[以下、『問題集 2』])である。これら3つの段階の質問文と、「今回のリニューアル後の最新」(『問題集 3』と『トレーニング

グ』の質問文を比較して考察していく。

近畿大学経済学部では、毎年12月に1年生から3年生までのほぼ全員が TOEIC® を IP で受験しているので、Part 2 の質問文をさまざまな角度から分析をして考察をし、前回までの予測を再検証をすることを通して、「取り組みやすいパート (Part 1) の問題数が減り、難しいパート (Part 3) の問題数が増えた」と感じている学生に対して、少しでも多くの、そして、より正確な情報を提示することができればと考えている。

2. 「質問文の語数」から検討する

まずは、「質問文の語数」という観点から、Part 2 の新形式問題における難易度を予測してみたい。基本的に語数が多いと音声的にも長い質問文となり、音声的にも長い質問文になると質問文の内容を把握しにくくなるために問題の難易度は上がる、そして、基本的に質問文の内容を把握できれば正答にたどりつける確率は格段に高くなるため、質問文が長い (質問文の語数が多い) 場合には問題の難易度は上がるという論理から、「質問文の語数」を分析してきた。

表1 質問文の語数の平均値

	Vol. 1	Vol. 2	Vol. 5	Vol. 6	新形式	問題集 1	問題集 2
TEST 1	9.2	8.23	7.67	8.67	8.4	8.08	8.84
TEST 2	8.73	8.17	7.63	8.67	8.56	8.12	8.28
TEST 1 + 2	8.97	8.2	7.65	8.67	8.48	8.1	8.56

	問題集 3		トレーニング
TEST 1	9.36	Section 1～10	7.58
TEST 2	8.48	Section 11～20	8.6
TEST 1 + 2	8.92	全	8.03

上の表1は、各公式問題集に収録されている2回分の「練習テスト」のそれぞれについて、Part 2 の質問文 (『Vol. 6』までは各30問、『新形式』以降は各25問) の語数の平均値 (小数点以下第三位を四捨五入) を算出したものである。なお、『トレーニング』の構成は、ほかの公式問題集とは異なっており、全部で20あるセクションのそれぞれにおいて、リスニングの4つのパートの問題が数問ずつ掲載されている。Part 2 に関しては、Section 1 から Section 10までは5問ずつ、Section 11から Section 20までは4問ずつの合計90問が

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する（井上）

収載されている。

前回までの分析は、『Vol. 1』と『Vol. 2』の平均値は $1,030 \text{語} \div 120 \text{問} = 8.58 \text{語}$ 、『Vol. 5』と『Vol. 6』の平均値は $979 \text{語} \div 120 \text{問} = 8.16 \text{語}$ 、『新形式』と『問題集1』と『問題集2』の平均値は $1,257 \text{語} \div 150 \text{問} = 8.38 \text{語}$ であり、「リニューアル後の初期」→「リニューアル後の後期」→「今回のリニューアル」という3段階での推移は、 $8.58 \text{語} \rightarrow 8.16 \text{語} \rightarrow 8.38 \text{語}$ となっていた。そして、全390問の平均値は $3,266 \text{語} \div 390 \text{問} = 8.37 \text{語}$ であった。

そして、今回の分析分であるが、『問題集3』の平均値は $446 \text{語} \div 50 \text{問} = 8.92 \text{語}$ 、『トレーニング』の平均値は $723 \text{語} \div 90 \text{問} = 8.03 \text{語}$ であった。『トレーニング』に関しては、その平均値がこれまでで最も低いものとなっているが、テキストの構成が異なっており、実際のテストと同じ25問の中での「質問文の語数の平均値」をみることができないので、ここでは参考程度に取り上げる。『トレーニング』では、Part 2に関しては、セクションが進むにつれて問題の難易度が高くなるようにしてあり、Section 1 から Section 5 の平均値は $166 \text{語} \div 25 \text{問} = 6.64 \text{語}$ 、Section 16 から Section 20 の平均値は $180 \text{語} \div 20 \text{問} = 9 \text{語}$ というように最初と最後で設問の難易度が大きく異なっており、すなわち、段階を踏んで練習できるようにしてある。

いっぽう、『問題集3』の平均値は、「新形式問題における Part 2 の質問文の語数は、8語台中盤前後の数値を推移していくと考えられる」という前回の予測を大きく外れる8.92語という高い数値となった。さらに、『問題集3』のTEST 1の数値だけをみると9.36語であり、この数値は、現在の形式で分析をしている中で最も高い数値となった。

（『トレーニング』の90問を除外した）全440問の平均値は $3,712 \text{語} \div 440 \text{問} = 8.43 \text{語}$ となり、（『トレーニング』の90問を除外した）新形式に移行後の平均値は $1,703 \text{語} \div 200 \text{問} = 8.51 \text{語}$ となる。このように、全体の平均値からみれば、「8語台中盤前後の数値を推移していく」という前回の予測の範囲内であるため、今回の分析においても、「新形式問題における Part 2 の難易度は変わらない」ということになるのであるが、『問題集2』のTEST 1で語数の増加の兆しがみられ、その傾向が『問題集3』でも続いていることを考えれば、「Part 2 の難易度はやや高くなる」という予測をしてみたい。

続いて、「質問文の語数の分布」をみてみよう。

表2 質問文の語数の分布

	6語以上	7語以上	8語以上	9語以上	10語以上
Vol. 1+Vol. 2	92.5	81.7	65	41.7	25.8
Vol. 5+Vol. 6	92.5	78.3	60	37.5	27.5
新形式	100	86	76	48	24
問題集1	92	78	56	38	26
問題集2	90	82	66	54	36
上記3冊合計	94	82	66	46.7	28.7
問題集3	100	88	70	58	40
トレーニング	92.2	73.3	53.3	33.3	23.3

	11語以上	12語以上	13語以上	14語以上	15語以上
Vol. 1+Vol. 2	19.1	14.2	10.8	4.2	2.5
Vol. 5+Vol. 6	13.3	3.3	2.5	0.8	0.8
新形式	10	4	0	0	0
問題集1	16	4	2	0	0
問題集2	14	6	4	4	2
上記3冊合計	13.3	4.7	2	1.3	0.7
問題集3	24	10	4	0	0
トレーニング	14.4	6.6	5.5	4.4	0

上の表2は、表1で分析したものと同一 Part 2 の質問文に関して、ある語数以上の質問文の数が質問文総数に占めるパーセンテージ（小数点以下第四位を四捨五入）を算出したものである。

まず、6語未満の質問文についてであるが、前回は『問題集1』と『問題集2』において、6語未満の質問文が9問も復活していたことから、難化傾向にはならないことを予測した。今回の分析では、『問題集3』には6語未満の質問文は登場しなかった。この事実は、上でみた『問題集3』における「質問文の語数の平均値」にみられる現象とともに、Part 2 の今後の難化を予感させるものになっている。他方、『トレーニング』では、6語未満の質問文は、テキスト前半の Section 1 から Section 5 までに25問中5問と集中しているいっぽうで、“Where was Mary this morning?”（『トレーニング』 Section 15-4 番），“What was the presentation about?”（『トレーニング』 Section 16-5 番）というように、セクションの後半でも取り上げられている。このことから、今後もある程度の割合で6語未満の質問文は出題される、すなわち、難化傾向にはならないと予測してよい

のではないかと考える。

次に、出題頻度の高い6語以上11語未満の質問文についてであるが、前回においては、「8語以上」の質問文の割合が落ち着きをみせたことから、前々回の分析時よりもやや易化の傾向を予測した。しかし、『問題集2』だけの数値に注目すると、「9語以上」と「10語以上」の数値がそれまでのどの数値をも上回っていたので、このパートの難化を予示するものではないかということも指摘した。そして、今回の分析では、その指摘が当たっており、『問題集3』において「9語以上」と「10語以上」の数値が、『問題集2』の数値をさらに上回るものになっており、さらに、「11語以上」の数値もこれまでのどの数値をも上回るものになっている。これは明らかに Part 2 の難化傾向を示している。

最後に、11語以上の質問文についてであるが、前回においては、「今回のリニューアル」の数値はすべて、「リニューアル後の後期」の数値からほぼ横ばいであったことから、今後もこの数値は大きく変化しない、すなわち、難易度の変化は起こらないことを予測した。ただし、その際も同様に、『問題集2』だけの数値に注目すると、『新形式』と『問題集1』にはみられなかった、「14語以上」の質問文が出題されており、さらには、「10語以上」から「15語以上」まですべて、「リニューアル後の後期」の出題の割合を上回っていたので、Part 2 の難化が起こるのかを今後も注意してみていかなければならないことを述べた。そして、今回の分析では、『問題集3』においては「14語以上」の質問文が出題されていないので、難易度の変化は起こらないという前回の予測で基本的にはよいのではないかと考える。しかし、『トレーニング』においては、“Do you like the orange or the purple scheme better for our window display?”（『トレーニング』 Section 7-7 番），“I don't think I'm going to be able to finish restocking the shelves tonight.”（『トレーニング』 Section 13-3 番），“Will we start using the payroll software next month, or will it be sooner?”（『トレーニング』 Section 18-4 番），“Should I repair the cracks in this floor or have the whole thing replaced?”（『トレーニング』 Section 20-4 番）という4問の「14語以上」の質問文が出題されている。これらの質問文は、単なる難問として作成されているのではなく、最近よく出題される単語である scheme, re- で始まる動詞, payroll, cracks が含まれていることから、今後出題される問題として作成されていることがわかる。したがって、ここには、やや難化の傾向が読み取れる。以上のように、「質問文の語数の分布」からも、「Part 2 の難易度はやや高くなる」という予測をしてみたい。

以上、「質問文の語数」という観点からみてきた。ここでの前回の予測は、「Part 2 の難易度は『リニューアル後の後期』のそれとほぼ変わらない」であったが、今回分析した数

値から考えると、「『リニューアル後の後期』よりもやや難化傾向にある」とするのが自然であろう。

3. 「質問文の種類」から検討する

次に、「質問文の種類」という観点から、Part 2 の新形式問題における難易度をもう一度予測してみる。質問文の種類については、これまでと同様に、国際ビジネスコミュニケーション協会が以前に発刊していた TOEIC® 対策本である『TOEIC® テスト 公式プラクティスリスニング編』の Part 2 の章立てを基本として、「WH 疑問文」、「Yes/No 疑問文」、「選択疑問文」、「依頼・許可・提案・勧誘の文」（以下、「依頼・提案の文」）、「付加疑問文と否定疑問文」（以下、「付加・否定疑問文」）、「肯定文と否定文」の 6 種類に分類する。

表 3 質問文の種類分布

	Vol. 1	Vol. 2	Vol. 5	Vol. 6	新形式	問題集 1	問題集 2
WH 疑問文	45	41.7	45	41.7	42	46	40
Yes/No 疑問文	13.3	15	8.3	10	14	10	12
選択疑問文	8.3	6.7	6.7	6.7	6	8	8
依頼・提案の文	11.7	8.3	8.3	13.3	14	16	12
付加・否定疑問文	10	15	15	15	16	12	18
肯定文と否定文	11.7	13.3	16.7	13.3	8	8	10

	1 + 2	5 + 6	新形式 + 問題集 1 + 問題集 2	問題集 3	トレーニング
WH 疑問文	43.3	43.3	42.7	40	45.5
Yes/No 疑問文	14.2	9.2	12	14	6.6
選択疑問文	7.5	6.6	7.3	6	7.7
依頼・提案の文	10	10.8	14	12	13.3
付加・否定疑問文	12.5	15	15.3	16	14.4
肯定文と否定文	12.5	15	8.7	12	12.2

上の表 3 は、表 1 と表 2 で分析したものと同一 Part 2 の質問文に関して、6 種類それぞれの質問文の数が質問文総数に占めるパーセンテージ（小数点以下第四位を四捨五入）を算出したものである。まず、「WH 疑問文」に関しては、今回の分析においても、これ

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する（井上）

までの分析とくらべて数値に大きな変化はなく、新形式問題で安定して40%強（25問中10問、ないしは11問）の出題が予測される。次に、「Yes/No 疑問文」に関しては、『問題集3』においてこれまでと大きく変わらない数値が出ているので、前回の想定どおり、12%から15%のあいだ（25問中3問、ないしは4問）の出題が予測される。いっぽう、『トレーニング』では、25問中の割り振りになっていないためここでも参考程度にみておきたいが、数値がひと桁台になっているので、12%（25問中3問）と予測しておくのが無難なところかもしれない。

続いて、「選択疑問文」については、『問題集3』のTEST2では1問しか出題されていないということはあるが、『トレーニング』で先ほど例文として取り上げた「14語以上の質問文」の4問中3問が選択疑問文である、すなわち、難易度の高い質問文として積極的に出題されることが想定できるので、前回やや上方に修正した8%前後（25問中2問）の出題を引き続き想定してみたい。そして、「依頼・提案の文」については、『Vol.6』から上昇した数値が「今回のリニューアル」においても継続し、さらに、今回の分析においてもその数値は安定しているため、新形式問題においては15%前後（25問中3問、ないしは4問）の出題を予測したい。

さらに、「付加・否定疑問文」に関しては、今回の分析においても数値は変わらず安定しており、今後も15%前後（25問中3問、ないしは4問）の出題が確実に想定される。最後に、「肯定文と否定文」に関してである。前々回の分析において、「リニューアル後の後期」まで続いていたふた桁のパーセンテージが、『新形式』において初めてひと桁になり、しかも、「リニューアル後の後期」の数値から半減していることを指摘した。そして、前回の分析でも、大きな数値の上昇はみられず、「今回のリニューアル」の平均の数値は8.7%とひと桁台のままであったので、「肯定文と否定文」に関しては、このひと桁台の出題が今後も続くであろうとして、8%から10%程度の出題（25問中基本的には2問、ときおり3問の可能性）を予測した。しかし、今回の分析では、『問題集3』においても『トレーニング』においても、パーセンテージがふた桁に戻ってしまっている。したがって、12%前後の出題（25問中3問、ときおり4問の可能性）を予測したい。

今回の分析において目立ったことは、前回の数値の大幅な減少によって今後出題が減るであろうことをはっきりと想定できた「肯定文と否定文」の数値の再上昇である。疑問文の形式をとらないことから、「事実を述べる」、「意見や感想を述べる」、「命令をする」というように質問の内容の幅が広がるこの「肯定文と否定文」という質問文は、その応答のパターンも多様化するため、ほかの5種類の質問文の問題とくらべると、問題の難易度

がかなり高い。その難易度の高い「肯定文と否定文」の数値が、今回の追加分析によって、最も高い「リニューアル後の後期」の数値まではいかないにしてもふた桁に戻った。したがって、その出題数が元に戻る可能性が予測できるので、前回は「新形式問題の Part 2 の難易度は下がる」ことを予測したが、今回は「新形式問題の Part 2 の難易度は変わらない」という予測になる。

さらに、前回分析した際に、『新形式』においてまったくなくなっていた、日本人英語学習者の多くにとって苦手な3つの文法事項「否定疑問文」、「現在完了形、または、現在進行形」、「受動態」のうちの2つが組み合わせられた質問文が、『問題集1』と『問題集2』においては2問ずつ出題されていたので、今後の出題傾向に注目しなければならないことを指摘した。今回の分析では、『問題集3』においては、“Where are your photographs being exhibited now?”（『問題集3』TEST 2-21番）という（50問中）1問だけが出題されている。これだけを見ると、この「組み合わせ」の質問文が、少ないながらも今後継続して出題されるという控えめな予測になるが、注意しなければならないことに、『トレーニング』において、90問中6問も「組み合わせ」の質問文がみられ、しかも、そのうちの2問は、“Hasn't the outgoing mail been picked up yet?”（『トレーニング』Section 3-4番），“Why isn't Conference Room C being used for the seminar?”（『トレーニング』Section 18-1番）というように、3つの文法事項がすべて組み合わせられた質問文となっているのである。このことから、今後積極的に「組み合わせ」の質問文が出題されること、すなわち、リニューアル前に戻ることが想定できる。

ここまで、「質問文の種類」という観点から考察してきたが、難易度の高い「肯定文と否定文」の出題数が元に戻るであろうこと、さらに、「否定疑問文」、「現在完了形、または、現在進行形」、「受動態」の「組み合わせ」質問文が今後も変わらず出題されるであろうことを考え合わせると、前回の『リニューアル前』から難易度が下がる」という予測とは異なり、「Part 2 はその難易度が『リニューアル前』と変わらない」という予測になる。

4. 「質問文に対する誤答の選択肢」から検討する

今回の分析においても、「WH 疑問文と選択疑問文に Yes/No で答える選択肢は100%不正解である」と「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択肢は、85%が不正解である」というふたつの攻略法を取り上げ、「質問文に対

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する（井上）

する誤答の選択肢」という観点から、Part 2 の新形式問題における難易度をもう一度予測してみたい。

まず、「WH 疑問文と選択疑問文に Yes/No で答える選択肢は100%不正解である」についてである。

表 4 WH 疑問文と選択疑問文に Yes/No で答える誤答選択肢の分布

	Vol. 1	Vol. 2	Vol. 5	Vol. 6	新形式	問題集 1	問題集 2
WH 疑問文	16.7	16.7	9.3	21.4	21.7	15.2	7.5
選択疑問文	50	25	0	0	0	12.5	25

	1 + 2	5 + 6	新形式 合計	問題集 3	トレーニング
WH 疑問文	16.7	15.5	15.2	20	12.1
選択疑問文	38.9	0	13.6	0	21.4

上の表 4 は、これまでに分析してきた Part 2 の質問文に対する選択肢に関して、WH 疑問文（「WH 疑問文の形をとる依頼・提案の文」を含む）の誤答の選択肢の総数に対して Yes/No で答える選択肢の数が占めるパーセンテージを、さらに、選択疑問文についても同様のパーセンテージを算出（それぞれ小数点以下第四位を四捨五入）したものである。

まず、WH 疑問文に Yes/No で答える選択肢については、前回の分析においては、リニューアル前とほぼ変わらない割合で出題されるであろうと想定されたので、新形式問題における Part 2 の難易度は、「変わらない」という予測をした。しかし、この予測は平均値から考えてみたものであり、実際のところは、WH 疑問文の誤答の選択肢に Yes/No で答える選択肢が占める割合は、『新形式』→『問題集 1』→『問題集 2』で、21.7→15.2→7.5 というように数値が大きく下がり、さらに、『問題集 2』の TEST 1 では、TOEIC® における誤答選択肢の定番であったこの Yes/No の選択肢がまったく出題されないという現象まで起きていたため、今後の出題傾向を注意してみていくことが必要であることを併せて述べた。

今回の分析では、『問題集 3』では20%まで大きく数値が回復しているし、『トレーニング』においても、『問題集 3』ほどではないが10%台まで数値が戻っている。また、『問題集 3』の TEST 1 では6つの Yes/No の選択肢が、TEST 2 では2つの選択肢が出題されており、『問題集 2』の TEST 1 のような現象は起きていない。そして、「WH 疑問文」の質問文の数が質問文総数に占める割合には大きな変化はないので、この数値の回復は、新形式問題において Yes/No で答える選択肢がこれからもコンスタントに出題されること

がわかる。したがって、WH 疑問文に Yes/No で答える選択肢という観点からみた新形式問題における Part 2 の難易度は、前回の予測と同様に、「変わらない」と予測できる。

いっぽう、選択疑問文における Yes/No の選択肢については、前回の分析では、「リニューアル後の後期」から途絶えていたこの選択肢の出題が、『問題集 1』と『問題集 2』において復活した。『問題集 2』の TEST 2 では 2 問も出題されていたことから、この選択肢が新形式問題において出題されることが十分に想定できた。したがって、選択疑問文に Yes/No で答える選択肢という観点からみた新形式問題における Part 2 の難易度は、選択疑問文の質問文の出題数が少ないことを考え合わせて、「やや易化する」という予測とした。

今回の分析では、『問題集 3』には Yes/No で答える選択肢はみられなかった。そのいっぽう、『トレーニング』では、“Did you speak to Alan or his assitant?” という質問文に対する “Yes, he does.” という選択肢 (『トレーニング』Section 1-2 番)、“Do you like the orange or the purple scheme better for our window display?” に対する “Yes, it’s nice outside.” (『トレーニング』Section 7-7 番)、そして、“Do you usually go to the gym before or after work?” に対する “Yes, it was.” (『トレーニング』Section 9-3 番) というように、選択疑問文 7 問中 3 問という高いパーセンテージで Yes/No で答える選択肢が出題されている。確かに『問題集 3』では出題されていないが、もともと出題数が少ない質問文であることを考えれば、『トレーニング』での出題率の高さは、今後この選択肢が新形式問題において出題されることが十分に想定できる。したがって、選択疑問文に Yes/No で答える選択肢という観点からみた新形式問題における Part 2 の難易度は、前回の予測と同様に、「やや易化する」と予測できる。

ここで、もうひとつの攻略法である、「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択肢は、85%が不正解である」についてみる。これまでと同様にそれぞれの一例を挙げておくと、同じ語に関しては、“Will you stay after the show to meet the musicians?” という質問文に対する “Almost as long as the previous show.” という選択肢 (『問題集 3』TEST 2-16 番)、似た音の語に関しては、“Could you please replace the tires on my car?” に対する “He’s retiring in May.”, “That’s a very nice place.” (『問題集 3』TEST 1-20 番)、派生語に関しては、“Would you like me to arrange a shuttle to the airport?” に対する “That flower arrangement is lovely.” (『問題集 3』TEST 1-13 番) にみられる。

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する（井上）

表5 質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む誤答選択枝の分布

Vol. 1	Vol. 2	1 + 2	Vol. 5	Vol. 6	5 + 6
53.3	41.7	47.5	22.5	23.3	22.9
新形式	問題集1	問題集2	新形式 合計	問題集3	トレーニング
27	36	34	32.3	20	21.6

上の表5は、これまでに分析してきたPart2の質問文に対する選択枝に関して、すべての誤答の選択枝の総数に対して、「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択枝」のなかの誤答選択枝の数が占めるパーセンテージを算出したものである（小数点以下第四位を四捨五入）。

前回の分析では、「今回のリニューアル」の数値が「リニューアル後の後期」のそれを9ポイント以上上回るという急上昇をみせたことを受けて、「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む誤答選択枝」という観点からみた新形式問題におけるPart2の難易度を「易化」と予測した。

しかし、今回の分析では、『問題集3』においても『トレーニング』においても、「今回のリニューアル」の数値を下回るどころでなく、「リニューアル後の後期」の数値も下回ってしまっている。したがって、今回の数値を見る限りは、この観点からみた新形式問題におけるPart2の難易度は「変わらない」という予測をせざるを得ない。

それではここで、これまでと同様に、「WH 疑問文と選択疑問文に Yes/No で答える選択枝は100%不正解である」と「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択枝は、85%が不正解である」というふたつの攻略法を合わせた「誤答の選択枝」を分析し、「質問文に対する誤答の選択枝」という観点からのPart2の新形式問題における難易度を予測してみたい。

表6 ふたつの攻略法を合わせた誤答選択枝の分布

Vol. 1	Vol. 2	1 + 2	Vol. 5	Vol. 6	5 + 6
60.8	47.5	54.2	25	30.8	27.9
新形式	問題集1	問題集2	新形式 合計	問題集3	トレーニング
35	40	36	37	26	27.2

上の表6は、これまでに分析してきたPart2の質問文に対する選択枝に関して、すべ

での誤答の選択肢の総数に対して、「WH 疑問文と選択疑問文に Yes/No で答える選択肢」と「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択肢」のなかの誤答選択肢の合計数（ひとつの選択肢に両方の要素が重なっている場合には、のべ数とせず1と数えた）が占めるパーセンテージを算出したものである（小数点以下第四位を四捨五入）。前回の分析では、「今回のリニューアル」の数値が、「リニューアル後の後期」のそれを9ポイント程度上回っていたので、「質問文に対する誤答の選択肢」という観点からみた新形式問題における Part 2 の難易度は「はっきりと易化」することを予測した。

しかし、今回の分析では、『問題集3』においても『トレーニング』においても、「リニューアル後の後期」の数値を下回っているが、表5の数値とくらべると、「リニューアル後の後期」の数値とほぼ変わらない数値になっているといえるだろう。したがって、この観点からみた新形式問題における Part 2 の難易度は「変わらない」ということになる。

ここまで、「質問文に対する誤答の選択肢」という観点から、新形式問題における Part 2 の難易度を予測してきたが、最後に、攻略法についての数値を修正すべきかどうかという問題を考察しておきたい。「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択肢は、85%が不正解である」という攻略法の85%という数値に関して、前々回の『新形式』の分析では、27（当てはまる選択肢の総数から例外〔すなわち、正答〕となる選択肢を除いた数） \div 31=87.1%（小数点以下第四位を四捨五入）というように85%を上回ったのであるが、いっぽう、前回の分析では、「今回のリニューアル」全体では97 \div 118=82.2%であったが、『問題集2』だけを見ると34 \div 46=73.9%というように85%を大きく下回った。というわけで、この攻略法については、「質問文の名詞・動詞・形容詞・副詞と、同じ語・似た音の語・派生語を含む選択肢は、80%が不正解である」というように、85%から80%に下方修正することが自然な流れであろうと前回は述べた。

今回の分析では、『問題集3』では20 \div 24=83.3%、『トレーニング』では39 \div 44=88.6%というように、『問題集2』で落ち込んだ数値は回復し、『問題集3』でも85%に近い数値が出ている。したがって、攻略法の数値は元の85%のままにかまわないのではないかと思う。

5. お わ り に

本論文では、公式問題集の ETS 作成による Part 2 の問題に関して、「質問文の語数」、

TOEIC® テストの新形式問題におけるパート2の難易度をさらに考察する(井上)

「質問文の種類」, 「質問文に対する誤答の選択肢」という3種類の観点から分析を行ない, TOEIC® が完全に新しい出題形式に移行した2017年4月以降の問題140問の数値を, それ以前の総計390問の数値と比較して考察することを通して, 新形式問題における Part 2 の難易度を推察してきた。

まず, 「質問文の語数」という観点からは, 前回の「難易度はほぼ変わらない」から変更され, 「やや難化傾向にある」となった。次に, 「質問文の種類」の観点からは, 前回の「難易度は下がる」から変更され, 「難易度は変わらない」となった。最後に, 「質問文に対する誤答の選択肢」の観点からは, 「はっきりとした易化」から変更され, 「難易度は変わらない」となった。

以上, 3種類の観点からの分析が, 「やや難化」, 「変わらない」, 「変わらない」であることから, 本論文での総合的な結論は, 前回の「やや下がる」から大きく変わり, 「新形式問題における Part 2 の難易度はやや上がることが予測される」である。

TOEIC® を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会は, 今回のリニューアルに関して, 「スコアの持つ意味や難易度に変更はありません」(『新形式』9)と述べている。さらに, リスニング・セクションにおいて, 取り組みやすい Part 1 の設問が減り, 最も取り組みにくい Part 3 の設問が増えたことから, 筆者は「Part 2 の難易度が下がるのではないかと仮定して, 一連の分析を始めた。しかし, 今回の結論のように, 「Part 2 がやや難化する」とすれば, いったいどのパートが易化して全体のバランスを取るのでしょうか。リーディング・セクションが易化しているのでしょうか。また機会があれば, ETS 作成の問題を分析して考えてみたい。

引 証 文 献

- [1] Educational Testing Service. 『TOEIC® テスト 新公式問題集』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2005.
- [2] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 2』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2007.
- [3] —. 『TOEIC® テスト 公式プラクティス リスニング編』東京: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011.
- [4] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 5』東京: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2012.
- [5] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 6』東京: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2014.
- [6] —. 『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』東京: 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2016年2月.

- [7] —. 『公式 TOEIC[®] Listening & Reading 問題集 1』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016年10月.
- [8] —. 『公式 TOEIC[®] Listening & Reading 問題集 2』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017年2月.
- [9] —. 『公式 TOEIC[®] Listening & Reading トレーニングリスニング編』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017年6月.
- [10] —. 『公式 TOEIC[®] Listening & Reading 問題集 3』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017年12月.
- [11] 井上 治. 「TOEIC[®] テスト初級者のためのリスニング・セクションパート2 攻略法——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第4巻第3号（2007年3月）：47-59.
- [12] —. 「TOEIC[®] テスト初級者のためのリスニング・セクションパート2 攻略法再考——近畿大学経済学部の TOEIC[®] テストへの取り組みとともに」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第6巻第2号（2008年10月）：115-131.
- [13] —. 「TOEIC[®] テストの新形式問題におけるパート2の難易度を推察する——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第14巻第2号（2016年11月）：27-40.
- [14] —. 「TOEIC[®] テストの新形式問題におけるパート2の難易度を再推察する——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第15巻第1号（2017年7月）：41-58.